

古文書を読む会学習記録

作成日 平成26年11月28日

開催日	平成26年11月27日	時 間	10:00～12:00
場 所	金沢公会堂 3号室	出席人数	12名
講 師	真田雅行氏	作成者	内田孝知
テーマ	第2学習 江戸時代の絵島生嶋事件 ⑪		
概 要	<p>正徳4年(1714)3月12日 絵島事件評決後の後日談三話</p> <p>1. 狂言座及び茶屋への申渡し (月堂見聞集、1697年～1734年までの見聞雑録)</p> <ul style="list-style-type: none">・狂言芝居の座敷が近年2階、3階となっており以前の通り1階以外は無用・棧敷より秘密の通路を拵えこと遊興にふけること無用、狂言役者は舞台上で狂言すべし・狂言役者の衣類美麗になっているが、絹紬・木綿を用いる事・灯りを立てての暮7ツ時(4時)以降の狂言は無用の事・寺社境内での狂言芝居等は元禄期に停止されているのに近年事軽く構えているが無用の事 以上の事しっかりと守る事。・闕所・追放等の評決済により、4月21日より堺町・木挽町の芝居再開の御免許仰付 <p>2. 松平保山殿(柳沢吉保の引退後の号)に荻生惣右衛門がお話申した事 (墨海山筆)</p> <p>秋元当番老中は將軍4代にも渡って政を執り行い、名人と呼ばれていたが、今度の絵島殿詮議は違っていた様だ。その子細は周礼に記載されている通り、官中の官女の姦犯はもの静かなる物陰にて糾明すべきもの、かつ女の科は謀反がましき事は先生まれな事、多くは色情での事。この9月秋元侯は死去なさるだろう。そのわけは久しく過ち無き御政治になれ給いたるが、この度の評定裁きは大造(おおげさ)過ぎたる事は、必ず後悔されるはず。しかし夏までは気候も良く、人の気も淋しからぬ時なので病気も出ないが、9月は肅殺(厳しい秋気)の候なれば、この時に至ては数十年の勤めの疲れが出、かつこの度の後悔も出て病気に気が付き、平癒しないのではと言った。</p> <p>保山は占いにてはあるまじきとお笑いなされたが、果たしてその9月に死去されたのを、安藤仁右衛門語る。(荻生徂徠が月番老中秋元但馬守の死期を的中させた話)</p> <p>3. 絵島事件の処置についての批判 (三朝逸事)</p> <p>堺町・木挽町への仰せ、今後棧敷は一段(一階)の事、役者・伎芸勤める時は絹紬・木綿の外着用停止。座にての芸のみ、茶屋又は外は勿論、大名衆への出芸も停止。この御仕置も有るべき沙汰では有るが、人により嘆き申す類も有り。</p> <p>今回の詮議は第1には側用人間部詮房の意向受け、秋元但馬守が事にあたったもので、先代以来の大きな弊害を除くことは余程の儀と評価するが、あまり厳し過ぎるのも善し悪しで、兎角政事に携わる者は相応の益があればそれでよかろう。</p>		
次回予定	平成26年12月11日 10:00～12:00 於金沢地区センター小会議室 第1学習 宿村 布川文書 ⑪		